

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	稲美町立稲美北中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	5	5	5	1	16	32
児童数	170	167	193	3	533	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力の定着を図り、自主的に学び続ける生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

〔少人数授業〕

1・2年生数学 (理解や習熟の程度に差が生じやすいため)

2・3年生英語 (理解や習熟の程度に差が生じやすいため)

〔選択教科〕 (生徒の興味・関心に対応した教科であるため)

選択

2年生 数学、英語

3年生 数学、英語、国語、社会、理科

選択

2年生 社会、理科、技術、家庭、美術、保健体育

3年生 技術、家庭、美術、保健体育

(2) 年次ごとの計画

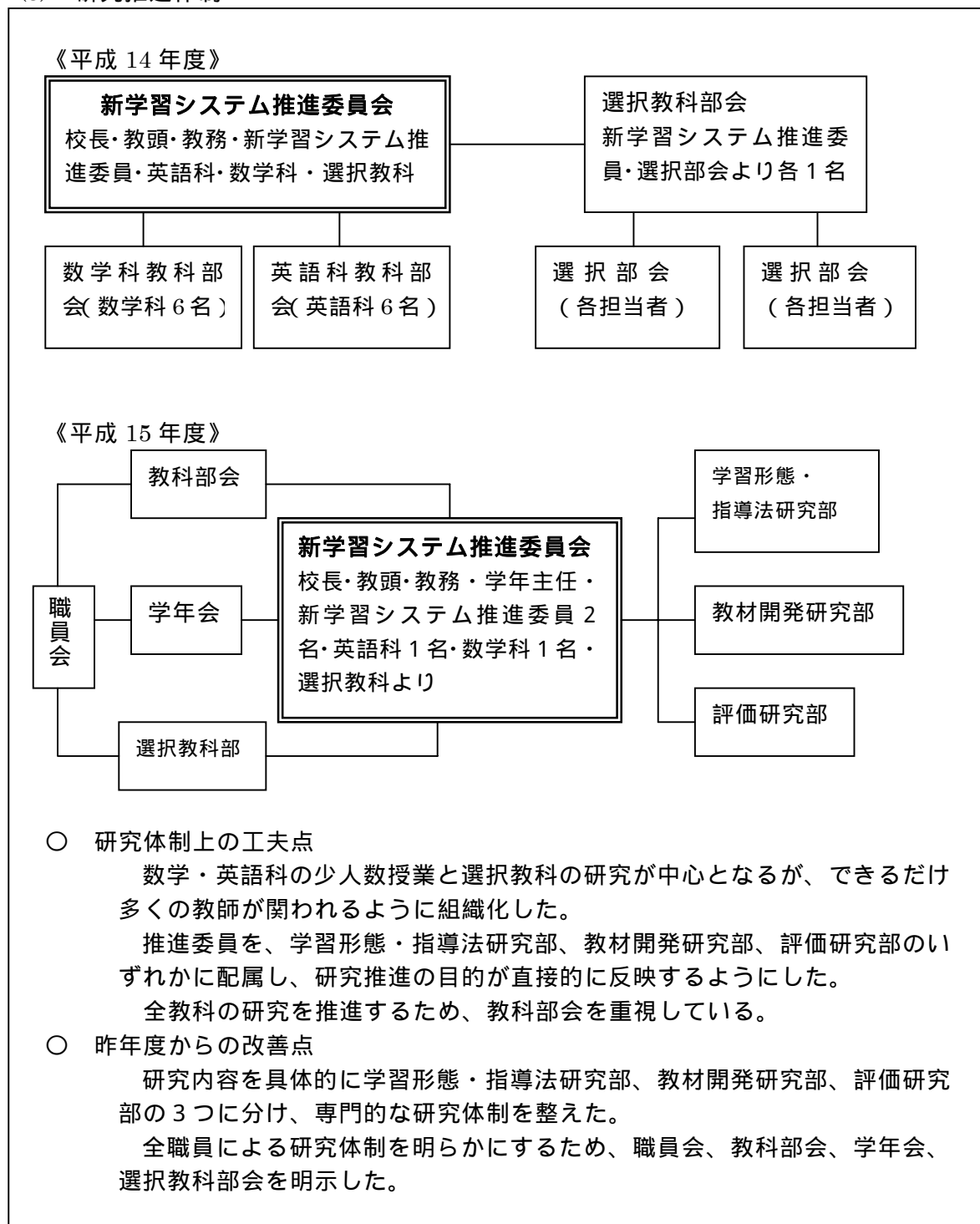
平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 基礎学力の定着を図る授業の創造 ○ 研究の見通し 各教科の基礎・基本、教科全体の学習を通じて必要とされる技能を明らかにし、それらの内容について、意図的、計画的な指導を工夫・展開することにより基礎学力の定着を図ることができる。 ○ 研究の内容・方法 各教科の基礎・基本の明確化とそれを踏まえた年間指導計画の作成 ア 各教科部会で学習指導要領の研究を行い、各教科の基礎的・基本的事項を明らかにする。 イ 学力テスト等を実施し、生徒の実態をつかみ、弱い領域の補強のための指導方法などを検討する。 ウ ア、イを踏まえ年間指導計画を作成し、実施する。
--------	--

平成 14 年 度	<p>基礎・基本の確実な定着を図るための指導方法の研究</p> <p>ア 各教科で授業研究や指導案検討、授業の批評などを行ない指導力の向上を図る。</p> <p>イ 全員による校内研究会を実施し、研究内容の共通理解を図る。</p> <p>学力や学習の状況に応じた少人数授業（数学・英語）の実施と研究</p> <p>ア 先進校への視察を行ない、同時に講師を招聘しての研修会を持ち、学校としての方向性や具体的な取り組みを検討・研究する。</p> <p>イ 数学・英語科において、積極的に研究授業を行ない、学習形態・指導方法の研究をする。</p>
--------------------	--

平成 15 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を高める授業の創造 ○ 研究の見通し 生徒一人一人の特性などに応じた指導内容や指導方法の一層の工夫・改善を図ることによって、基礎・基本を確実に定着させることができる。主体的な学習の充実を図ることにより、学ぶ意欲を高めることができる。 ○ 研究の内容・方法 教科の基礎・基本を明らかにするとともに、基礎・基本の定着を図るための授業研究 選択教科において、課題学習など興味・関心に応じ、学ぶ意欲を喚起する授業の推進 個に応じた指導（発展的な学習や補充的な学習）の推進研究 少人数指導や学力や学習の状況に応じた指導の推進研究
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 基礎学力の定着を図り、自主的に学び続ける生徒を育てる授業の創造 仮説 学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める授業の工夫・改善を行うとともに、評価方法の見直しによる適切な評価を実施することにより、主体的な学びを可能とすることができる。</p> <p>研究内容・方法 学ぶ意欲を高める授業の研究</p> <p>ア 教材や指導体制を検討する。</p> <p>イ 評価を生かした指導方法を工夫する。</p> <p>学ぶ習慣を身につけさせるための取り組み</p> <p>ア 生徒の発達段階に応じた助言や支援の方法を研究する。</p> <p>イ 家庭における学習の充実を図る方法を検討する。</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 教科書の内容理解度が高い水準を保っている。現 3 年生英語に焦点を当ててみる。「授業のあと教科書の内容は理解できていますか?」というアンケート調査によると、平成 14 年 5 月 (2 年生時) では「とてもよくわかる」、「大体わかる」と「普通」を合計すると、86%になる。平成 15 年 7 月 (3 年 1 学期) のアンケートには「普通」の項目がなく、直接比較は難しいが、「とてもよくわかる」と「大体わかる」と回答した生徒の合計が 84.5%にのぼる。学習の難易度が高くなっていくにもかかわらず、これだけ高い数値が残せた。これは一人一人に対するきめ細

かな指導が実践された結果である。それと分かる授業を目指した工夫が功を奏し、一人一人に確かな学力がついてきた証でもあると考えられる。

- 1クラスを2つのコース(習熟の程度による)に分けて、少人数で授業を行なっていることについて、平成15年7月の調査によると、「よい」と答えた割合は、数学科で86.5%、英語科で85%である。基礎・基本を重視したベーシックコースと発展的内容も取り入れたアドバンスコースの、各コースに沿った授業展開・内容が生徒に浸透してきており、意欲を高める授業の創造を目指してきた研究結果と言える。

2. 今後の課題

- 学習評価について
少人数にするため1クラスを2コースに編成しているので、学習評価に統一性を保つことが一番の課題であると考えられる。各コースに合った指導と内容で個を伸ばす一方で、教える教材とテストが同一でなければならないという矛盾がある。
指導方法を重視すればコースの特色が出て密度の濃い指導が可能であるが、それに傾倒すると共通の課題が見失われることにつながる。両者のバランスが崩れないよう、そして評価の基準となるべき観点や評価規準の取り扱いについて、指導者間の綿密な打ち合わせが常に必要である。
- 本年度は選択履修幅の拡大を目指して、2年選択に4コース、選択に6コース、そして3年選択に8コース選択に8コースを設けた。コースの数だけ指導者の配置が必要となり、持ち時間数、学年配当などから検討を要する。

学力把握のための学校としての取り組み

- 定期考査及び学力テスト、全国学力調査
目的
観点別到達度を把握し、指導の指針とする。
実施内容
テストを観点別に採点し、達成状況を記録する。
時期
定期考査(各学期)、3年生学力テスト(ほぼ毎月)
2年生全国学力調査(2月)、1・2年生学力テスト(2月)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成14年 8月 校内研修会(講師招聘)
・学校組織作りとカリキュラム作成
- 平成14年11月 研究授業(数学・英語)
研究冊子発行
- 平成15年 8月 校内研修会(講師招聘)
・学力形成と評価のあり方
- 平成15年11月 東播磨地区学力向上フロンティア事業研修会
・授業公開(数学・英語)
・講演会「学校システム改革」
研究冊子発行
- 平成16年11月 研究発表会

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T.Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	